

# 犬にマダニがついたらどうする？ 愛犬のマダニ駆除・対策に有効なお薬をご紹介します

犬につくダニの種類には大きく4種類ありますが、中でも厄介なのがマダニです。今回は、犬につくダニの種類や代表的な症状についてご紹介するほか、マダニが寄生した場合の駆除・対策に有効な犬用のダニ駆除薬とはどのようなものがあるのかをお伝えしていきます。



## 犬につくダニの種類は主に4種類



### ①マダニ

マダニは八本足と硬い外皮を持つ節足動物の一種で、体調は3～4mm程度ですが、吸血して膨張すると500円玉くらいの大きさになる種類もあります。マダニは5～9月が繁殖期とされていますが、室内などであれば年中活動する可能性があります。主に草むらなどに生息しており、散歩中の犬や移動中の人間の衣服などに付着して家屋に持ち込まれ、室内でも感染をする恐れがあるため、年中警戒が必要となります。

### ②ヒゼンダニ

ヒゼンダニは体長がわずか0.4mmしかなく、顕微鏡で見なければ発見することのできない小さなダニです。犬の疥癬(かいせん：強いかゆみをもたらす)を引き起こす原因となる外部寄生虫の一種として知られています。ブラシ・タオル・首輪などを介して他の犬から移ることがあるため、注意しましょう。

### ③耳ダニ (ミミヒゼンダニ)

耳ダニは、ミミヒゼンダニとも呼ばれ、体長は0.3mmと小さいです。その名のとおり、犬の耳の中(耳道内)に寄生し、組織液や耳垢をエサにして繁殖を繰り返します。愛犬の耳に黒い耳垢が多くみられる場合、愛犬の耳から小さな黒い塊が落ちてくるようなことがあれば、耳ダニの感染症にかかっている可能性が考えられます。

### ④ニキビダニ

ニキビダニは、体長0.2～0.3mm程度であるため、肉眼では確認できません。母犬から仔犬への感染が多くみられます。ニキビダニがもたらす症状としては、皮膚の紅斑、鱗屑(フケ)、脱毛、色素沈着などがあげられます。

## 特に注意したい「重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)」



マダニ媒介性疾患として、特に注意したいのが重症熱性血小板減少症候群(SFTS)です。犬・人間ともに6日～2週間程度の潜伏期間があり、その後、発熱、食欲不振、嘔吐、下痢、腹痛といった風邪のような症状が出ます。重症化が進むと、頭痛、筋肉痛、意識障害、失語症などの神経症状、リンパ節膨張、皮下出血、下血などの出血症状がみられ、白血球や血小板の減少等を伴う危険な病気となります。しかも、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は致死率が10～30%と高く、症状の原因となるSFTSウィルスに対する有効なワクチンもないため、治療方法も対処療法しかありません。

マダニの駆除薬には、「スポットタイプ」と「チュアブルタイプ」の2種類があります。

## ① スポットタイプのマダニ駆除薬

スポットタイプとは、お薬を犬の体表(首元)に滴下するお薬です。

### 〈メリット〉

- ・首元に薬剤を垂らすだけなので投与するのが簡単。
- ・チュアブルタイプが苦手な愛犬にも投与できる。

### 〈デメリット〉

- ・投与を行ってから薬剤が乾くまでスキンシップやシャンプーができない。
- ・体に薬剤を投与されることにストレスを感じる犬もいる。
- ・皮膚の疾患などがある場合は使用することができない。
- ・製品によっては、足先や顔などにまで効果が浸透しない場合がある。

## ② チュアブルタイプのマダニ駆除対策のお薬

チュアブルタイプとは、おやつのように食べさせるお薬です。

### 〈メリット〉

- ・嗜好性の高いチュアブルタイプは、おやつ感覚で与えることができる。
- ・皮膚に疾患などがある場合でも、問題なく使用できる。
- ・投与後もすぐにスキンシップやシャンプーなどができる。
- ・足元から頭まで、全身に均等な効果が期待できる。
- ・スポットタイプのような外用薬よりも寄生虫に対して速効性が高い。

### 〈デメリット〉

- ・アレルギー体質の場合、素材によっては摂取できない薬剤もある。
- ・愛犬が嗜好性の問題で摂取しない場合がある。

ノミ・マダニに関する最新情報をチェック!

LINE 公式サイト LINE@友達募集中 →

